

都市再生整備計画 事後評価シート
登別東地区

令和7年3月

北海道登別市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	登別市		地区名	登別東地区			面積	48		
交付期間	令和3年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	391	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路、地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(緑化施設等、歩行支援施設)、高次都市施設(地域交流センター)									
			提案事業	地域創造支援事業									
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			基幹事業	高質空間形成施設(緑化施設等、歩行支援施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼花壇 北海道の駅前広場整備事業の中で実施することとなったため ・モニュメント 市内の景勝地やイベント風景等を表現するジオラマを製作し、施設内に設置するものとして計画変更したため ・カバードウォーク 高次都市施設へのアクセス向上を図るため計画に掲載していたが、JR北海道が整備することとなったため 			計画自体は他団体等の事業により実施されることから目標への影響は無い。					
			提案事業	-	-			-					
	新たに追加した事業		基幹事業	公園	・都市公園登別ピーチパークに新規の出入口と園路を整備し、同整備地区内において歩行する方の利便性向上を図るため			基幹事業の追加はあるものの、設定した指標への直接的な影響は無い。					
			提案事業	地域創造支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設の利用者の利便性向上を図る観点から、当該施設にWi-Fi環境を整備するため ・市内の景勝地やイベント風景等を表現するジオラマを製作し、施設内に設置するものとして計画変更したため 			提案事業の追加はあるものの、予定していた基幹事業の代替事業として実施することなどから指標への直接的な影響は無い。					
交付期間の変更		当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	-		-			-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	登別市観光交流センター(地域交流センター)利用者数	人/年	17,297人	R1	18,500人	R5	モニタリング	評価値	×	あり ● なし -	公共施設の再編成により施設の利便性・満足度の向上が図られたが、駐車場など周辺の整備が進行中であるほか、地域人口の自然減が見込みを上回ったことなどにより達成には至らなかった。	R7.9
	指標2	歩行者通行量	人/日	745人	H29	790人	R5	モニタリング	評価値	●	あり - なし -	周辺では整備が進捗中であるものの、JR登別駅を利用するインバウンド数が従前値基準年度を上回ったことなどの影響もあり、目標値を上回る結果となった。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1							モニタリング	評価値				
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画終了後における登別地区のまちづくりに向け、発展的に新たな体制による協議会が発足し、周辺地区の活性化策について継続的に議論が行われている。 ・観光交流センターを中心とした賑わい創出に向けた民間団体が発足し自主的な活動が行われている。 												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		-				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 				-		
	官民連携による取組		登別商工会議所、登別国際観光コンベンション協会など関係団体が参画する協議会において、設備や利活用について複数回議論を行った。				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 				● 今後とも官民連携によりまちづくりを進めていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		計画終了後における登別地区のまちづくりに向け、発展的に新たな体制による協議会が発足した。				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 				● 民間主導の協議会によるまちづくりの議論を必要に応じ市がバックアップしていく。		

様式2-2 地区の概要

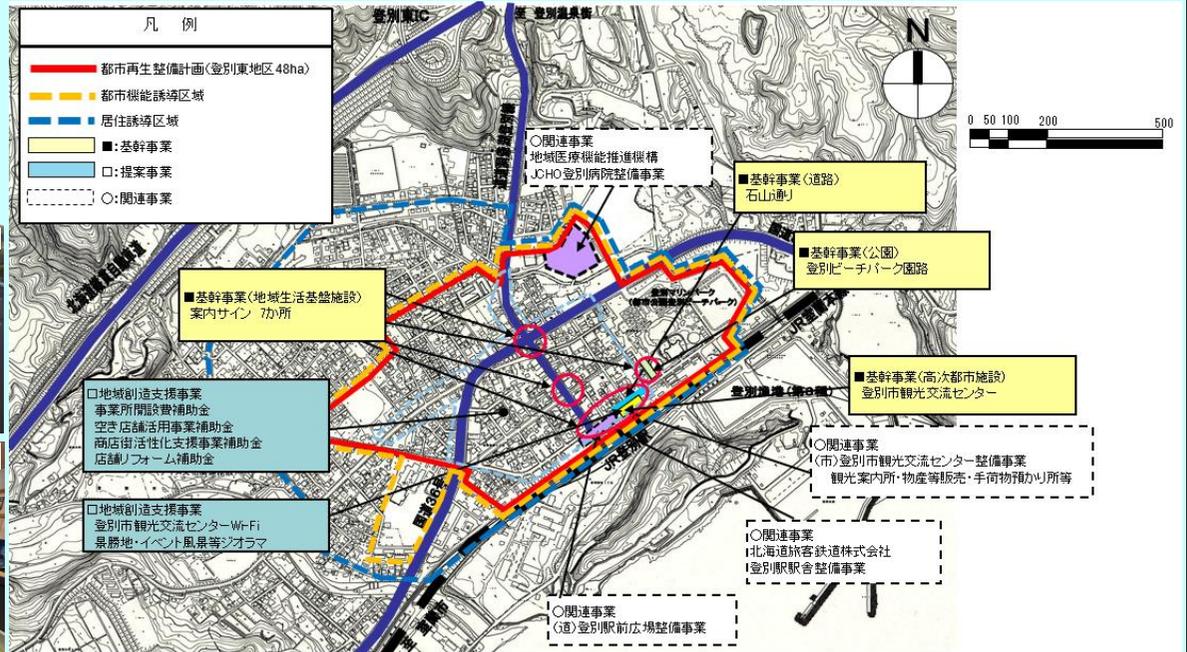
登別東地区(北海道登別市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
<ul style="list-style-type: none"> 登別市観光交流センターを中核とした賑わいのあるまちづくり 登別駅周辺の一体的整備と地域創造によるまちの活性化 	登別市観光交流センター(地域交流センター)利用者数	単位:人/年 17,297人 R1	18,500人 R5	16,510人 R5
	歩行者通行量	単位:人/日 745人 H29	790人 R5	828人 R6

● 交付対象事業の主な取り組み



● 整備概要図



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 登別駅前周辺は、観光交流センターの整備や本計画に関連する事業の実施に伴い、街の賑わい創出につながっている。 空き店舗等は少しずつ活用が進んでいるが、未だ散在している状況にある。 老朽化した公共施設が再編成され、行政サービス機能やコミュニティ機能が集約されるとともに、インバウンドにも対応する観光情報発信機能も併設され、観光客・地域住民双方の利便性・満足度が向上した。 観光交流センターの整備にはじまり、今後JR登別駅のエレベーター等の設置や新駅舎の建設、現駅舎のリニューアル、駅前広場の整備などが予定され、観光のほか、交通や住民生活の面からも、登別観光の玄関口に相応しい環境が整いつつある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 登別東地区は、登別駅前周辺の整備のほかにも、駅前につながる道道登別停車場線の無電柱化や、歩道が拡幅され、オープンカフェやベンチ等の設置条件の緩和により歩行者の安全・快適な滞留が可能となるほこみち事業の実施、登別中学校の統合に伴う跡地の利活用、旧登別婦人センター跡地の利活用など、数年のうちの街が大きく変わっていくことから、各関係団体や地域住民の方々と協議を重ね、観光・住民生活両面にとってよりよいまちづくりにつなげていく。 登別東地区は、登別市立地適正化計画における都市機能誘導区域に位置付けており、今後も、都市機能の維持向上や誘導・集約による賑わいある利便性の高い都市拠点の形成に取り組んでいく。 観光交流センターは、観光客等に対する情報発信機能が備わっているほか、地域交流が盛んに行われる場として、地域内外から交流人口を引き寄せる集客力の高い施設であり、この施設が持つ魅力を発信し、多くの人々が行き交う賑わいのあるまちづくりにつなげていく。 地域おこし協力隊を計画的に活用することで登別商店会等と連携し事業者の誘致やイベントの企画を行うとともに、事業者の開業等に係る補助金の補助金額を嵩上げすることにより、開業しやすい環境をつくり街の活性化につなげていく。